

話の組み立てや言葉づかいを考えてたずねよう

# 「インタビュアー名人になろう」

新潟大学教育人間科学部附属新潟小学校

藤井 正人

相手の答えに関連させた質問のしかたを

「話すこと・聞くこと」の学習において、子どもに身につけさせたい、いちばん重要な「言葉の力」は何かと問われたら、私は、「相手の話を聞き、それに関連させて話す力」と答える。端的に言つと、「聞いて、話す力」である。そして、「聞いて、話す力」を最も効果的に身につけさせることができる言語活動として、「インタビュー」に注目している。

「インタビュアー名人になろう」(五上)という教材がある。指導内容として、「相手の答えによつて、さらにたずねたいことが出てきたら、関連させていく」ということが示されている。これこそが、「相手の話(答え)を聞いて、それに関連させて話す(質問する)力」が発揮されている姿である。

しかし、実際は、多くの子は、前もって決めていたこ

とを質問するだけで、相手の答えを聞いて、それに関連させて次の質問を考えることができない。相手の答えに関連させた質問のしかたを身につけられるよう、教師が指導すべきだが、質問のしかたをマニュアル的に教えても、あまり効果がない。子どもが自ら質問を考える学習を通して身につけた質問のしかたこそ、実際の場面で使えるのである。

そこで、この教材を実践するにあたって、子どもが自ら質問を考える学習として、次の二つを構想した。

一つは、教材文の検討を通して、質問を考える学習である。ここでは、質問によつて聞き取った答えが書かれている教材文を提示し、どんな質問をされたのかを問う。これにより、子どもは、まず教材文をもとに、答えから逆に質問を考える。次に、教材文を読んで、さらに質問したいことを問う。そして、考えた質問をもとに、相手の答えに関連させた質問のしかたを理解する。

もう一つは、小グループでの聞き取り活動を通して、質問を考える学習である。ここでは、子どもは、相手の答えを聞き、それについてさらにくわしく知ろうと、質問を考える。相手の答えに関連させた質問のしかたを実際に活動する中で身につけていくのである。

## 指導の計画(五時間)

- 単元「めざせ、インタビュアー名人 友達のクラブ活動の取り組みについて、くわしく聞き取り」
- 指導計画
- 第一時…インタビュアーの目的、意味を知る。
  - 第二時…インタビュアーの進め方や質問のしかたを理解する。
  - 第三時…小グループで実際に聞き取り活動をして、質問のしかたを理解する。
  - 第四時…二人一組になって、インタビュアーを行う。
  - 第五時…自分のインタビュアーについて振り返る。

相手の答えに関連させた質問のしかたを身につけさせる実践事例

(1) 教材文の検討を通して、質問を考える学習

(第二時)

まず、「木村さんにインタビュアーをして、次のことがわかりました」と話し、次の教材文を提示した。

### 教材文

「木村さんにインタビュアーして分かったこと」

木村さんは、まん画クラブに入っています。

クラブ員の人数は、二十三人です。

木村さんは、まん画が好きだから、このクラブに入りました。

クラブでは、まん画を読んで感想を話し合う活動や、おすすめの作品をしょうかいする活動をしています。

そのうえで、「木村さんは、どんな質問をされたのですか。」とたずねた。

子どもは、提示された教材文をもとに、次のような質問を考えた。

どのクラブに入っているのですか。  
人数は何人ですか。  
なぜ、まん画クラブに入ったのですか。  
まん画クラブは、どんな活動をしているのですか。

これをもとに、入っているクラブ名、人数、入つた理由・きっかけ、活動内容をたずねる四つの質問を、

「基本の質問」として押さえた。  
次に、「インタビュアーしてわかったことを読んで、さらに質問したいことを挙げなさい。」と指示した。  
子どもは、次のような質問を考えた。

- ア 男女の人数は、それぞれ何人ですか。
- イ 木村さんは、たとえば、どんなまん画がすきですか。
- ウ 木村さんは、毎月何冊くらい読みますか。
- エ 木村さんは、どんな作品を紹介しましたか。
- オ 木村さんは、どんなまん画を読んで、どんな感想を話しましたか。(以下略)

このよつな、「基本の質問」の答えについて、さらにくわしくたずねる質問を、「つつこみの質問(相手の答えに関連させた質問)」としてまとめた。

最後に、子どもに、ア・オの中で、木村さんのクラブ活動の取り組みについてくわしく知るために、最も大切な質問はどれかをたずねた多くの子どもはエ・オを挙げた。そこで、エ・オを、取り組みのくわしい具体をたずねる「つつこみの質問」として押さえ、今回のインタビューでは、特に大切であることを説明した。

- C…十二人のうち、男女の人数と各学年の人数を教えてください。
- A…全員女子で、四年生が五人、五年生が七人です。
- C…六年生がいないんですね。
- B…ダンスクラブに入った理由は何ですか。
- A…わたしの好きな のよつに、わたしも歌いながら踊れるよつになりましたからです。
- B…ダンスクラブは、どんな活動しているのですか。
- A…ダンスの曲を決め、その曲に合わせて自分たちで振り付けを考えて、踊っています。
- C…今まで、たとえば、どんな曲で踊っていましたか。
- A…(曲名を三曲答える)
- D…その中で、いちばん振り付けがうまくできた曲はどれですか。
- A…(曲名を答える)
- D…それは、どんな振り付けですか。(以下略)

CとDは、「基本の質問」に対するAの答えに関連させて質問をしている。その中でも、……のよつに、相手の取り組みについて、くわしい具体をたずねる「つつこみの質問」をしている。

このよつに、子どもは、インタビュアーの進め方(基本の質問)と相手の答えに関連させた質問(つつこみの質問)のしかたを理解した。

(2)小グループでの聞き取り活動を通して質問を考える学習 (第三時)  
ここでは、四人ごとにグループを組ませ、次のように役割分担する。

- A…聞き取りの相手役
- B…「基本の質問」をして、聞き取りを進行する役
- C・D…相手の答えを聞いて、さらにくわしく知るための質問を考えるつつこみ役

この聞き取り活動は、各グループで役割を交代しながら四回行う。したがって、全員がつつこみ役を二回経験することになる。

あるグループは、次のよつに聞き取り活動をした。

- B…Aさんは、どんなクラブに入っているのですか。
- A…ダンスクラブです。
- B…人数は何人いますか。
- A…十二人です。

聞き取り活動の中で、CとDは、相手の答えを聞いて、それについて、さらにくわしく知るための質問を考えることに専念できた。そして、全員がつつこみ役を二回経験した。このような仕組みのある小グループでの聞き取り活動を通して、全員の子どもは、「つつこみの質問」のしかたを身につけることができた。

#### まとめ

実践事例で述べた二つの学習を通して、相手の答えに関連させた質問のしかたを身につけた子どもは、二人組でのインタビュアー活動(四時間目)において、一人で「基本の質問」をしながら、必要に応じて、相手の答えに関連させて次々と質問をしていた。そして、インタビュー後の感想では、友達のクラブ活動の様子について、くわしく聞き取った満足感や達成感を味わったことを記述していた。

この実践で身につけた「聞いて、話す力」が、友達のスピーチを聞いて質問や感想(コメント)を述べる学習や、話し合いの学習にも生かされ、さらに高められることを期待したい。